雲英文庫

信州上田 古越書屋

そのもちゝ男
きしもきや秋のうけ
おけしき堅
白水

松一もと海を
うけ後の雲
後つきや秋の
夫の笠一つ
[illegible]
[illegible]

山路やくるゝ
うゝ平うすさくら
和きとゝいなりぬ
降も原のまゝ

六花菴
来蘇

晩鐘丸

景ゝ山居遊しく

移舟ゝ

東武府しゝ
渭陽府七十九翁
素丸云

あふさかの関

ことのくまかりけるにほとしをとくハ
あら稀と
ぬるうひとうられ甚ともいふに君れ
をしまさりていやうさすれかりすこしとけ
きるハ下まを菓のこと田もハなるへしなと
いひもてゆくまそらんとりていすやあの
ふりうんといふまこれをしまへ人もなし
あるかはかさやとりせんまへもなきり
ちやほろくとおらかりられハそ紀後う
かけりまあもつるうなハ稀りしう免乃
ちれのをみもこむとり
忍ミの事四ミうけ
きるもおうし

梅のえの
さきといふ名を
なのみてを
なと花りさの
あみうひなき

花

さらくさく
左と山鳥の
そしめとう柱
うりてくおのくを
おもありうや

部ニ

あとささを
とかくこ山乃
志めひ者ハ
ゑれ上ゑんてよも
なけほとゝきれ

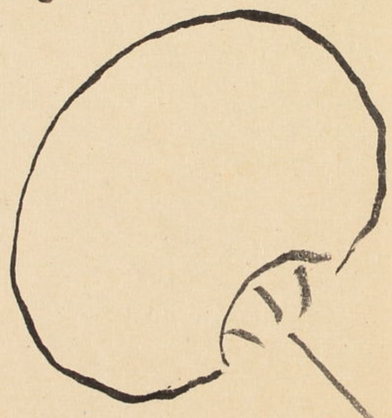
月

こゝこゝてことゝよるといふ
まつ川の葉を
このそふかなとゝれ
秋の月うけ

ある人のもとにて座をやり水せきいれ岩る
よりおとしなとしてうれ布引のうるとていと
清しはしなしたるを笑くゑるまかりけるは
きこしはすさりしかりは是ハ人のこゝろの見ゑも
するなとおもふはおりしも志をものそれ いふ
さむらて澄のひとハそのめふをてしとゝかり
水そをとさへきこへさりけれハ

山ゑめを
冬ハ水の
たり志こと
ゑき川
せぬひを
とつる布引

[illegible]



雲晴三四更
露落月華明
何處吹橫笛
偏令愁思清
右愁思

北詞 葉如穆

酒くみぬ
きぬ皇
志ゆとりて
夕櫻

みちれく
李投

巴陵一望
洞庭秋日
見孤峯水
上浮聞道

神仙不可
接心隨湖
水共悠〻
荆吴相接

水為鄉君
去春江正
蒙茫日暮
征帆何處

泊天涯一
望斷人腸
橫江館前
津吏迎向
余東指海
雲生即今
欵波緣何
事此風

波不可行
桂殿長愁
不記春黃
金四屋起

秋塵夜懸
明鏡青天
上獨照長
門宮棄人

峨眉山月
半輪秋影
入平羌江
水流夜發
清溪向三
峽思
見下
李白
乘舟
渝州
君不

將欲行忽
聞岸上踏
歌聲桃花
潭水深千
尺不及汪
倫送我情
賈生西望
憶京華湘

浦南遷莫
愍嗟聖主
恩深漢文
帝憐賢君不
遣到長沙
楊花落盡
子規啼聞
道龍標過

五緘我寄
愁心與明
月隨風直
到夜郎西

故人西辭
黃鶴樓烟
火三月下
揚州孤帆

遠影碧空
盡惟見長
江天際流

須戸ちまて
風紙ゆ
すしきた
高陳伝
百樹

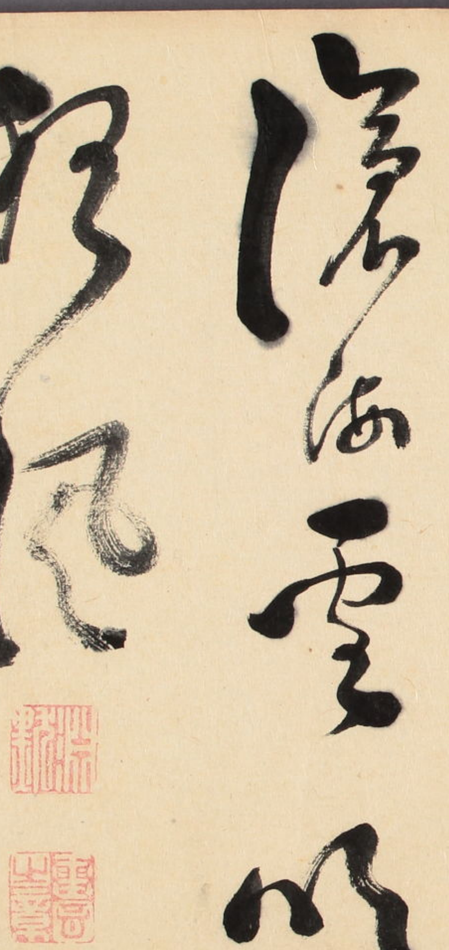
鳴風の草木
あこのかぎと
娘の花
こちれと
て
網

梅の鉢り
日暮夕陰如
公右

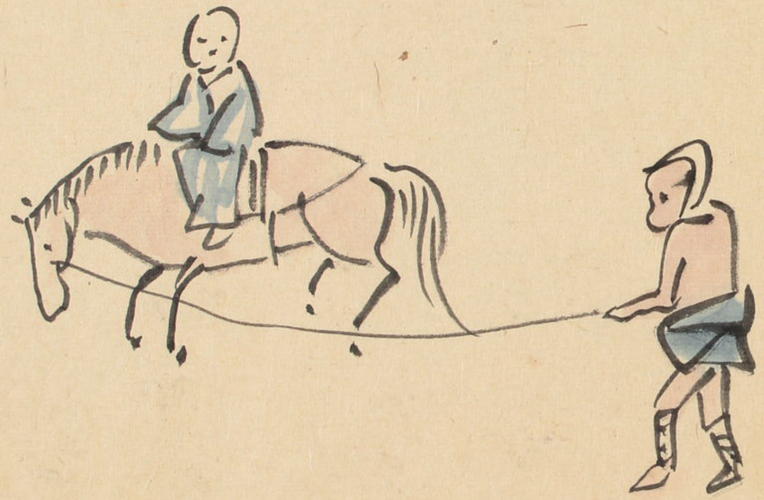
陶志也
綱ひくさ落
角之河
鉄舩

不立文字
教外別傳
直指人心
見性来佛

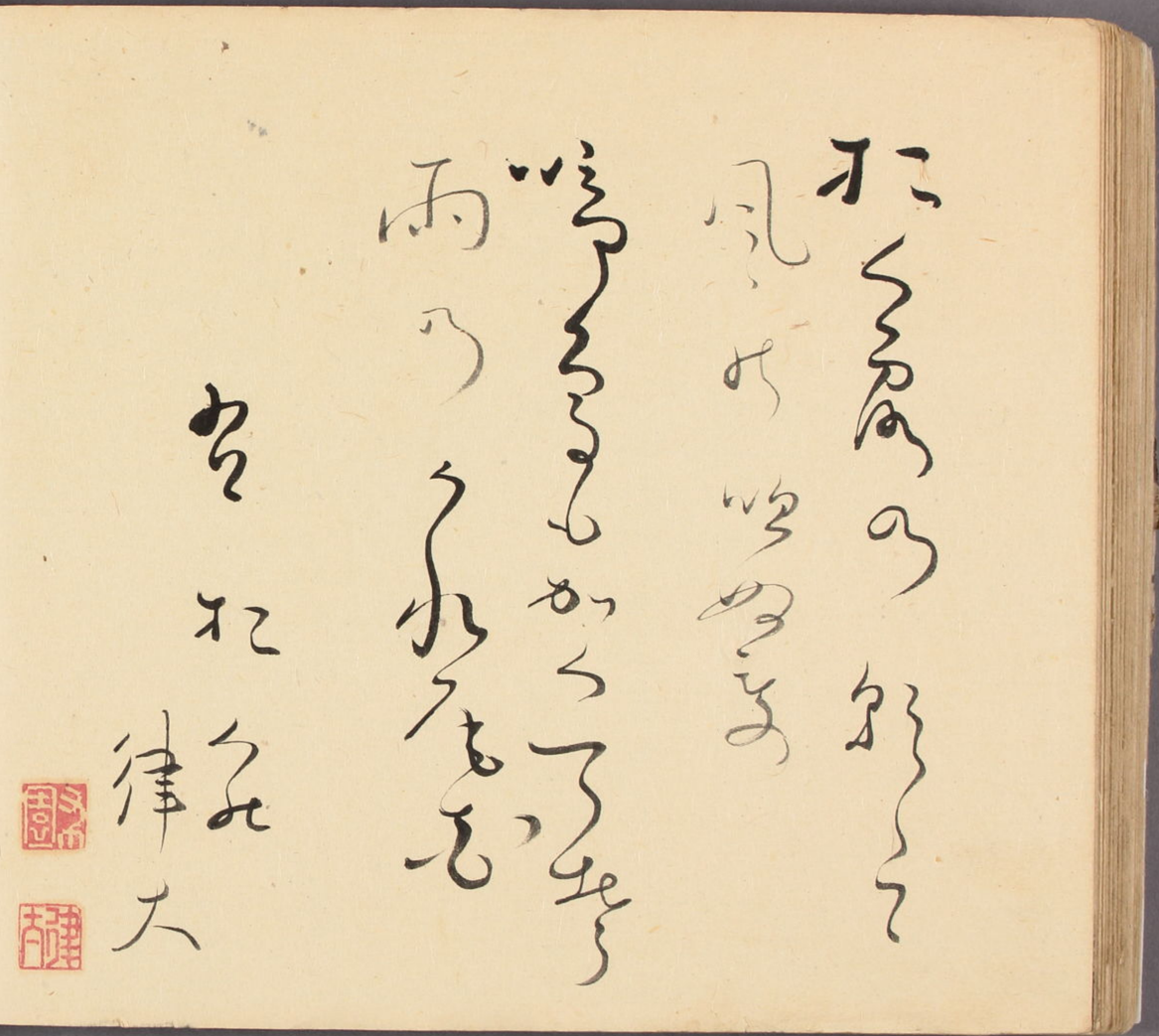
安留屋集也宇仁
方農係土老志禮
寛政四年壬子季春日
六稀見録芝蔚敬書



雲云大道無
名先宗測乎
淵海雲明
朝風



一日常無名無富志
一夜深能曲海濱
惟是心無可煩惱
無經有花有清香
如興國書古印文



たくみの影にて
風は吹ぬる
吹ちるもかくてきて
雨のくれ水もむ

宮

松
律大

川風の
きらい
吹ちせ
柿の上

雪の朝
不あの小
ゐくまも
ものそのこ
右四章寄せ

あるる
あしかれ
朱能盛水
かしらかり
和宮
秋史

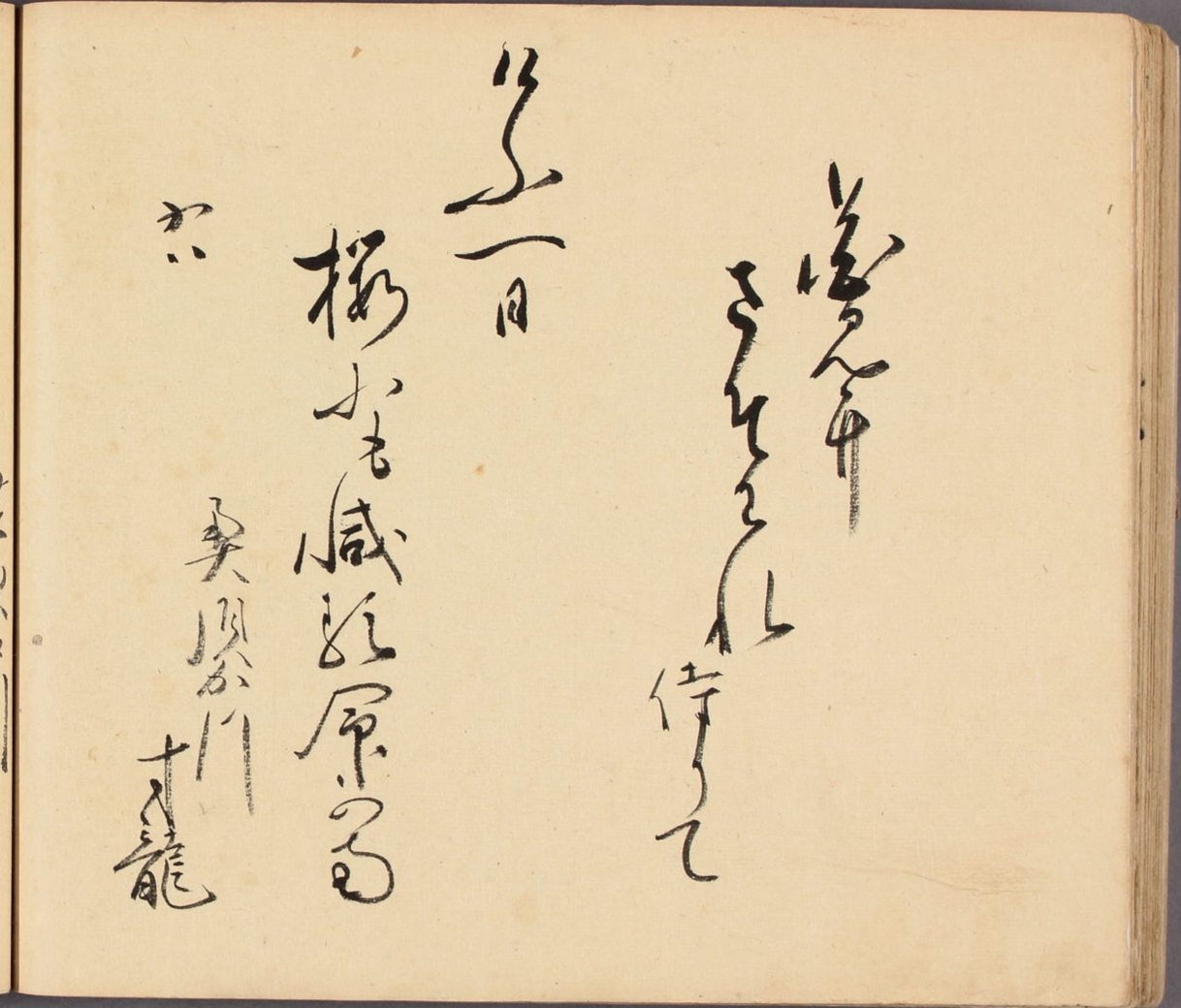
詠螢

蕭條風色暮霄燭度寒塘
的歷雙林外微茫一水傍
庭柯分子細垣堵忽飛揚
晝隱深羞除夜遊寥廊場
星疑懸白璧影憶綴青琅
含露依苔徑迷燈近竹廂
盛紗看筆札投案辨縑緗
入賦良堪愛獨憐霜後亡

送人之西京

翩翩白馬向皇州萬里關山去
不留海嶽晴看仙子宅烟霞
春滿鳳凰樓一時賦筆搖
西洛千載文章擁上游知爾
青雲逢狗監金門待從雇風
流

右東奥伊達長谷寺宿匡



[illegible]
[illegible]
[illegible]
待て

[illegible]日

櫛かもは咸原の宮

奥源州　才龍

秋五

[illegible]波や
[illegible]け天
秋の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]川
雨考

[illegible]

桐宇

宵しく寝や

池塘は梦と

朧自

岩瀬

晋途

地田氏の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寧求錦 弄繡着
得雨青〻 昨入桃
源去 今朝尚帶
馨

咏蕙

平子魚

雲峯大人のまのゆかりせ
[illegible]

伯里のこころなりしと
杜淑し

又

渕や瀬ハ浮世なるべし
乙鶴川

鈴山一卅亭
白亀

出ぬ人
[illegible]
家形にも
旅人
筆しゆ
春の山
[illegible]

組題の中小風靜にして花盛るること
いふまでとよめる

百鳥の羽風靜かなれども那し
ひきもかなぬ花乃木の間より
同じく暮の遠情といふ事を
[illegible]
[illegible]
百首方中より

吾

芙蓉峰下相社

明月夜千重

[illegible]

[illegible]

翌日峰更

[illegible]

袖かすめ

[illegible]

六月廿日 [illegible]

野ゝ寺ゝ街や虹の
下ふる秋の雨
みちにく一羅
東雄

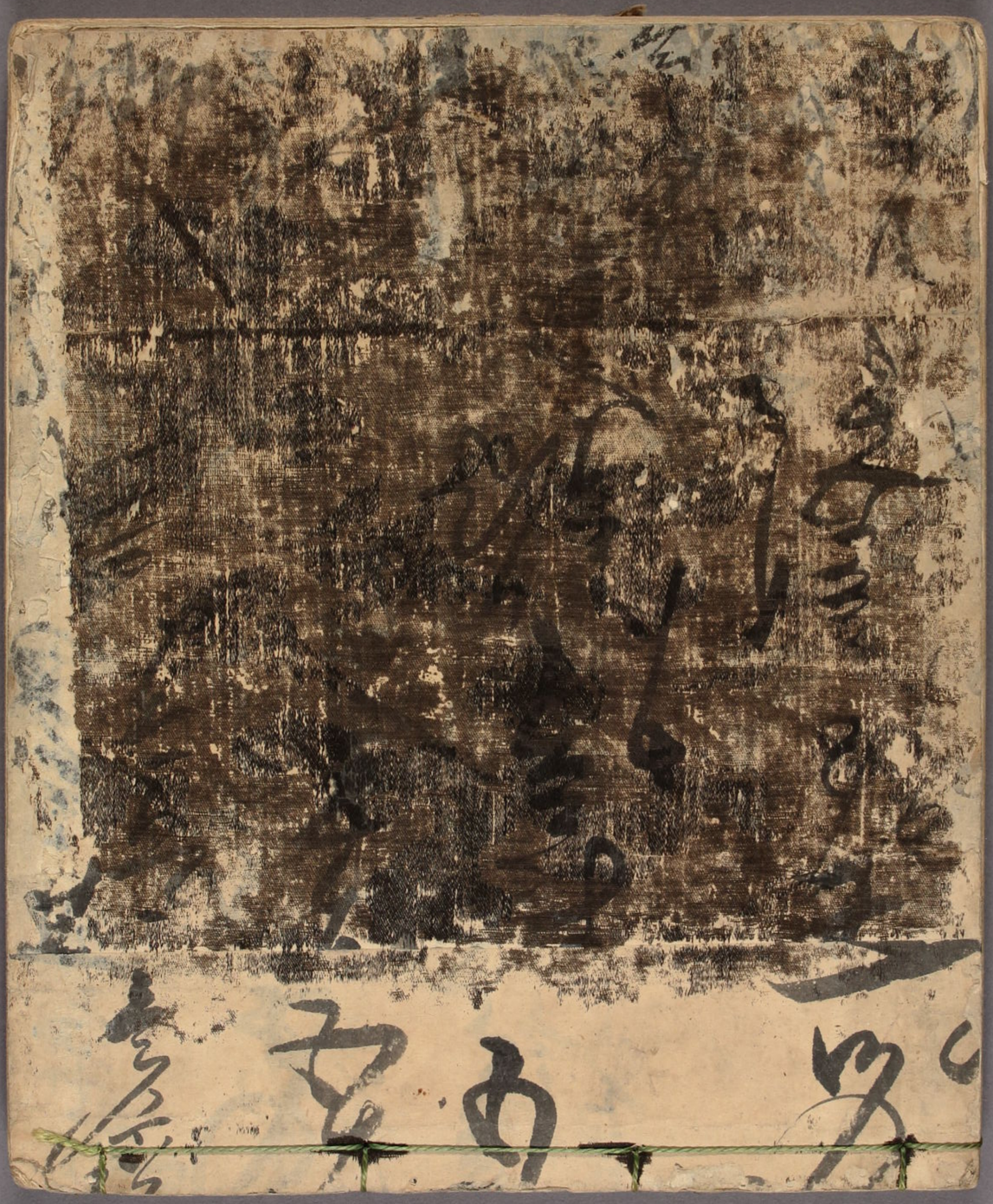
小常陸の国にて
東様の春や
此詩をし
宮しろ秋
奥もりをしの
月守

秋の
まと
あるの
志ら波
日も
暮のら
一葉

法ゝて経今もあり梅日和
いしもとへ法歌せかく
ノ為霧に
穂蕎きの青と
乃ほるや見ふのを
法然や世家に抵ふ
柚の風味

明月
重ゝ亦
如是

大正壬寅年當
落正月元日即寅ノ日当リタルニ
茲ニ詠詩ス
琉中柳蘆塵迎秋春四海同
飛火栗基雨喘悪慶
紫迎散精神改不試茅垂
方知多少史

信州 古麓屋 上田

雨の音の
ゝ津しくて
雪、しし
月とあ
羽刀江
尺村